

F-20 動態社会における農家家族の非移動性
— 一家庭経営における家族移動の論理を中心と
して—

奈良女大学政 山内 豊二

1. 近年、わが国では都市化の拡大により農家人口の都市への流出が激増しているが、そのわりに農家戸数の減少はみられない。このことは農家家族の移動性が極めて低いことを示している。動態社会のなかにおいて農家家族の移動性は何故低いのかその論理を家庭経営における意思決定理論として追求する。

2. 家族の地域間移動は家庭における長期投資に関する意思決定の問題と判断される。従って家族移動の意思決定の経済的基準は、現在価値に割引いた期待生涯所得の地域間移動に伴う増加分から、家族移動に伴う諸経費を控除したものすなわち期待生涯所得純増加分である。

つぎに、この経済的基準と稼得主体の年齢及び職業転換（農業から非農業へ）との関係から農家家族の非移動性を理論的に明白にする。なお、意思決定に作用する社会的要因についてもふれる。

3. 農家家族はその構成員（学卒者）の流出という形で人口移動の機能を果たすが、稼得主体を中心とした家庭経営体は非移動的で世帯交替期まで存続する可能性が大である。